

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	—	三年生で学ぶこと				
4	4 (話す聞く 2)	ことばに親しもう	□◇声に出して読んだり、わかりやすく話したりすることや、内容を聞き取ったりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。			
4	2 (話す聞く 2)	「じこしょうかいビンゴゲーム」をしよう	◇「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、自身のことを紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 →◎知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →◎思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 →思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ	1	○「自己紹介ビンゴゲーム」を通して、互いを知り合うという学習の見通しをもつ。 1. カードを書く。 (1) 好きなものや得意なことをカードのマス目を書く。 2. カードを使って、ビンゴゲームをする。 (1) グループになり、カードに書いたことを1マスずつ発表し合い、同じ場合は丸を付ける。列がそろったら「ビンゴ」と言う。 (2) 同じものが好き、同じものが得意という人どうしで集まり交流する。 (3) グループを変えて、ビンゴゲームをする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (【知識及び技能】(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (【思考力、判断力、表現力等】Aア)
				2	3. 別の話題でビンゴゲームをする。 (4) 話題を決めてカードに書く。 (5) カードを使ってビンゴゲームをする。 (6) 友達が考えた別の言葉にはどんなものがあるか確かめ合い、交流する。 ○学習を振り返る。	【態度】進んで日常生活の中から話題を決め、学習の見通しをもって情報を集め、自身のことを紹介し合おうとしている。
2	かえるのびよん	□姿や様子をイメージしながら、工夫して音読する。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 →◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 →知技(3)オ □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 →◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ	3	1. 各連で、それぞれをどのように跳び越えたのかを考えながら、「びよん」の読み方を工夫して音読する。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って工夫して音読しようとしている。	
				4	2. グループなどに分かれて、動作化やセリフなどを工夫して音読する。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4～5	9 （書く2）	一 ばめんのつながりに気をつけて読もう	□登場人物の行動や気持ちを思い浮かべながら読み、物語の続きを予想する。			
		白い花びら	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 →◎知技(1)カ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 →◎知技(3)オ ■気に入った表現について、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 →◎思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 →◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 →思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 →思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3～5 6 7～9	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 全文を読み、初発の感想を書く。 (1) 登場人物の人数や場面の数を確認し、できごとの全体をとらえる。 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを書いて紹介し合う。 考えよう 2. 場面ごとに、ゆうた・かずき・女の子の行動や気持ちを読む。 (1) ゆうたとかずきは、どのような子どもか。行動や話したことを比べながら読む。 (2) 女の子について、不思議だと思うところを見つけて紹介し合う。 (3) (2)でまとめたことをもとに、女の子に対するゆうたの気持ちの変化をとらえる。 深めよう 3. ゆうたは女の子にまた会えると思うか、自分の考えをもとに話し合う。 ・2の(3)でまとめた内容をもとに考える。 広げよう 4. 気に入った言葉や表現を紹介し合う。 ・なぜその表現が気に入ったのか、理由を説明する。 ○学習を振り返る ・ゆうたの気持ちの移り変わりを想像することができたか。 ・気に入った言葉や表現を見つけて紹介できたか。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを友達と紹介し合おうとしている。
5	3 （書く3）	「発見ノート」を作ろう	■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書きたいことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。 →◎思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆理科：観察ノートへの応用を図ることができる。	1・2 		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	2	国語辞典の引き方	△国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. 教材文を読み、国語辞典の引き方を知る。 2. 見出し語には出ていない言葉をどう調べればいいのか見当をつける。 3. 二つの意味を合わせて言葉を理解することを確認する。 4. 辞典によって、ならび方のきまりなどが違うことを知り、自分が使う辞典のきまりに従って引く。 5. ならび方のきまりに気をつけてP.37の下段の語句などを国語辞典で調べて、発表し合う。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を活用しようとしている。
				2	○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	12 (書く2)	三 だんらくの要点をつかもう				
5	2	うめぼしのはたらき	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1	1. 脚注を読み、問いの文と答えの文を見つける。 2. 脚注を読み、「中心となる文」と「それを説明する文」を見つける。 (1) 3段落にサイドラインを引く。 (2) 4段落、5段落にサイドラインを引く。 (3) 小集団で交流し、サイドラインの位置を確かめる。 3. 学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）
				2	1. 前時にサイドラインを引いた部分を短くまとめる。 (1) サイドラインを引いた部分を音読する。 (2) 短くまとめた文を考え、ノートに書く。 (3) 友達どうしで交流する。 2. p. 61「学習の手引き」を読み、要点をまとめることについて理解する。 (1) 「要点」という言葉の意味を知り、その意味をノートにまとめる。 (2) 友達どうしで交流する。 3. 学習を振り返る。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）
						◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）
						◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）
						【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、学習課題に必要な点と要点を
5～6	10 (書く2)	めだか	□段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	3	○単元名とリード文を読み、直前の教材で学習したことを生かしながら、要点に気をつけて読み、大事なことをまとめるという学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. わかったことや、浮かんた疑問を初発の感想として書く。 (1) 文章を通して読み、めだかのどのようなことを説明している文章なのかを話し合う。 (2) (1)をもとに、文章を大きく二つのまとまりに分ける。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）
				4・5	考えよう 2. p. 58～59の手引きに書かれた表をもとに、段落の要点を書く。 (1) めだかは、敵からどのようにして身を守っているのか。 (2) 友達どうしで交流し、各段落の要点を確認する。 (3) 学習を振り返る。	【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）
				6～8	3. 段落の要点をまとめる。 (1) 自然の厳しさにたえるためのめだかの体の特長を、「めだかはかせ」になったつもりで他の魚と比べながら箇条書きにする。 (2) 友達どうしで交流し、各段落の要点を確認する。 (3) 学習を振り返る。	◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）
				9・10	深めよう 4. 「めだか」についてわかったことについてまとめる。 (1) 表に整理したことをもとに、P59の項目を参考にわかったことを書く。 (2) 本を読んでわかったことがあったら、つけたしをする。	◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。
				11・12	広げよう 5. 書いた文章を友達と読み合う。 (1) 友達と交換し、書いた文章を読む。 (2) 感想を一言書いたり、話したりして伝える。 ○学習全体を振り返る。	【態度】粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことや大事なことをまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	4 (書く1)	俳句に親しむ	△俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：俳句への関心を広げる。	1 2・3 4	○p. 62を読んで、学習のめあてをつかむ。 1. 俳句の特徴を知る。 2. それぞれの句を、解説を読みながら、季節の様子を想像して音読する。 3. 気に入った俳句を覚えて暗唱し、発表する。 4. 想像した句の情景や、その句を気に入った理由などをカードに書いて、発表し合う。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6～7	13 (書く10)	四 しりょうを集めて活用しよう				
6	3	本で調べよう	△本の仕組みやつくりを知り、それをもとに知りたいことに応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △知りたい情報を見つけるための方法を知り、それをもとに目的に応じた本を探して読み、必要な事柄を「読書カード」に記録する。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。⇒思判表C(2)ウ ☆理科：図鑑の活用	1	○知りたいことを見つけるための方法を使って、目的に応じた本を探して読み、「読書カード」に記録するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 1. 図鑑の構成と使い方を知る。 (1) 調べ学習の経験を想起し、自分の知りたいことが載っている本を探す方法について発表する。 (2) 目次・索引の役割や違いを知る。 (3) 目次・索引を使って図鑑を引く。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)
				2	2. 調べたいことを決め、本を探す。 (1) 前書き・後書きが本を探す時の手がかりになることを知る。 (2) 奥付について知り、調べた本についての記録の仕方を知る。 (3) 調べたいことを決め、目次・索引、前書きなどの手がかりをもとに本を探して読む。	◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。
				3	3. 本を読んでわかったことや、本に関する情報などを「読書カード」に記録し、友達と読み合う。 (1) 本に関する情報、調べたいこと、読んでわかったことや感想などを「読書カード」に記録する。 (2) 「読書カード」を友達と読み合い、興味をもった本を探して読む。	◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことを説明しようとしている。
6～7	10 (書く10)	クラスの「生き物ブック」を作ろう	■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆理科：観察記録文の書き方に活用することができる。	1	○「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 生き物を選び、調べる。 (1) 調べたい生き物の特徴を探す。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)
				2・3	(2) 選んだ生き物と、比べてみたい生き物について調べ、メモに書く。	◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)
				4・5	組み立てよう（重点） 2. 組み立て表を作る。 (1) 書いたメモを並べる。	◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)
				6・7	(2) 組み立て表を読み合い、見直す。	【態度】粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。
				8・9	書こう 3. 文章を書く。 読み返そう 4. 文章を読み返す。	
				10	伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○今回の学習で学んだことを学習感想としてまとめる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
7	2	漢字の広場 ② 漢字の音と訓	△漢字の音と訓について理解する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ	1 		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
7	9 (書<2)	五 登場人物のせいかくを考えながら読もう				
		のらねこ	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、相手のことを思いやったり、互いに理解し信頼し合ったりすることについて考える。	1・2 3～6 7 8・9	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 物語を読んで登場人物を確かめる。 (1) のらねことリョウの行動やセリフをもとに、気づいたことや考えたことをノートなどにまとめる。 (2) まとめたことをもとに、のらねこの性格について話し合う。また、のらねこをリョウがどのように思っているかを想像して話し合う。 考えよう 2. のらねことリョウの気持ちの移り変わりをとらえる。 (1) 二人の気持ちがいちばん近づいたのは、どの場面かを考えて話し合う。 (2) のらねこと、リョウの家のねこの違いを考えて紹介し合う。以下のような課題をもとに考えよう。 ①なぜ、のらねこはあんなにうたぐり深いのだろう。 ②リョウになでられたのらねこは、何を考えていたのだろう。 7 深めよう 3. リョウとかいねこの様子を、のらねこは屋根の上からどのような気持ちで見ていると思うか、想像したことをもとに話し合う。 ①リョウに対してどのような気持ちになっているか。 ②かいいねこに対してどのような気持ちをもっているか。 8・9 広げよう 4. 『のらねこ』を読んだ感想をノートに書き、読み合う。 ・最初に読んだときの感想や疑問と、今の時点での感想の違いを書く。 ○学習を振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (【知識及び技能】(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】進んで登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語の感想を書こうとしている。
7	1 (書<1)	きせつの言葉を集めよう	△俳句には「季語」が読み込まれていることを知り、季節に関係する言葉を集める。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1	1. 教科書に例示した俳句の中にある「季語」を指摘し、声に出して読む。 2. 「歳時記」などから、季節に関する言葉を集めてノートに書く。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。 (【知識及び技能】(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り、学習課題に沿って季節の言葉を集めようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1 (話す聞く 1)	よく見て、話し合おう	◇写真をよく見て、気づいたことや考えたことについてグループで話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	1	○写真を見て気づいたことや考えたことを話し合うという学習の見通しをもつ。 1. グループで話し合う写真を選ぶ。 2. 写真をよく見て、気づいたことをメモに書く。 (1) 写真を見る視点をもつ。 (2) 自分の経験を思い出したり、読んだことのある物語と結びつけたりして、イメージを広げて感じ取ったことを書く。 3. メモをもとに、話し合う。 (1) イメージしたことを順番に出し合う。 (2) 写真の題名やキャッチフレーズを考える。 (3) 話し合った内容を発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】進んで目的や進め方を確認し、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	16 (話す聞く 2, 書く14)	六 つたえたいことをはつきりさせて書こう	■◇取材を通してわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお誘いの手紙を添えて送る。			
9	10 (話す聞く 2, 書く8)	取材して知らせよう インタビューをしよう	■◇取材メモを上手に使う、組み立てを考えながら調べたことを文章にまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒◎知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆社会科：校外学習での報告文の作成に役立つ。	1 2 3・4 5・6 7～9 10	○「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 知りたいことをまとめて、「取材メモ」を作り、調べる。 (1) 「取材メモ」の作り方とメモの例を読み、取材のときに注意することなどを出し合う。 (2) p.106～107の阿部さんの例文を欄外の注とともに読み、気づいたことなどを出し合う。 (3) インタビューの仕方を理解し、計画を立てる。 (4) 計画をもとに、見学に行き、インタビューする。 (5) 見学して、わかったことをメモする。 組み立てよう（重点） 2. 「取材メモ」の中から、書く内容を選ぶ。 ※「取材メモ」の中から、いちばん伝えたいことを中心に選び出す。 ○「取材メモ」をもとにし、文章の構成を考える。 書こう（重点） 3. 報告文を書く。 読み返そう 4. 報告文を読み返す。 ○書き上げた報告文を読み返して、必要なところは書き直して清書する。 伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○取材や「取材メモ」の書き方を振り返り、他教科の学習（例えば社会科や総合的な学習の時間など）にも生かしていく。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） ◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。
9	6 (書く6)	手紙を書いてつたえよう	■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒◎知技(1)キ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ⇒思判表B(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間：依頼状やお礼状を書く際に活用できる。	11・12 13 14～16	○教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 決めよう・集めよう 1. p.110・111の阿部さんの手紙を読んで、お礼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 2. 誰にどのようにお礼を伝えるのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 組み立てよう 3. お礼の手紙の構成を考える。 書こう・読み返そう（重点） 4. 手紙・封筒の書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書く。まちがいがなければ読み直す。 伝え合おう 5. 下書き（清書）を読み合い、書き手の気持ちが伝わる文章になっているかを確かめる。 ○学習を振り返り、手紙のよさについて話し合う。	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	時	学習活動	評価規準
9	2	漢字の広場 ③ 送りがな	△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「強まる」「強める」を含む文を読み比べ、送り仮名の役割について考える。 2. p.112の下段の例示の言葉をいくつか使って短文を作り、友達と読み合い、適切に送り仮名を書いているかを確認合う。 3. 教科書に示されているほかにも、「動きを表す言葉」や「様子を表す言葉」を探し出し、発表し合う。 4. p.113の上段の「書く」「読む」の()に送り仮名を書き、気づいたことを話し合う。 5. 「だす・でる」「きる・つく」「けす・きえる」を、送り仮名に注意して漢字で書く。 6. 「育」のように、同じ漢字でも送り仮名によって、読み方や意味の違いを使い分けしていることを知り、正しく読む。 7. 送り仮名によって、読み方が変わる漢字を集め、それらを使った短文を書き、発表する。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)
	2 (書く2)	漢字の広場 ③ 二年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 「元気に走り回ってみようと思います。」を参考にして、外でやりたいことを文に書く。 10. 外でやりたいことについて、絵の中の言葉を三つ以上使い、二文以上が続く文章を書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9～10	9 （書く2）	七 場面のうつりかわりに気をつけて読もう	□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉える。			
		わすれられないおくりもの	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心な情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1～3 <		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	1	ローマ字とコンピューター	△コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. p.137を読み、コンピューターに入力する際にはローマ字で打ち込む必要があるが、文字変換の際の文字の選択・決定は人が決める必要があることを理解する。 2. 入力の際に気をつけなければならない字について理解し、正しく打ち込めるようにする。 3. 実際にいろいろな言葉を入力をして、ローマ字の綴り方の確認をする。 ○学習を振り返る。	◎【知技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。

第3学年 国語科 年間指導計画・評価計画

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
10	—	三年生で学ぶこと				
10 ～ 11	16 (話す聞く 9, 書く2)	一 絵文字の特長をとらえよう	◇身のまわりのさまざまな絵文字がどんなことを表しているかなどについて話し合い、絵文字に対する興味や関心を高める。			
10	2 (話す聞く 2)	世界の人につたわるように	◇身のまわりの絵（絵文字）を友達と紹介しよう。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア △目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1	○単元名とリード文を読み、絵文字について考えるという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 身のまわりにある絵文字を発表する。 2. 教科書に示されたそれぞれの絵文字が、何（どんな競技）やどんな意味を表しているのかを考える。 2	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】進んで集めた材料を比較したり分類したりして、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。
7 (書く2)	7 (書く2)	くらしと絵文字	□段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書くこととするものの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	3	○単元名とリード文を読み、段落のつながりに気をつけて教材文を読んで絵文字を説明する文章を書くという学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を確かめる。 (1) 筆者は、絵文字とはどのようなものだと言っているのか、本文から確かめる。 (2) 「くらしと絵文字」を三つの大きなまとまりに分けて捉える。 4～6	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、身のまわりの絵文字について説明する文章を書こうとしている。
				7・8	深めよう 3. 身のまわりで見つけた絵文字を説明する文章を書く。 (1) その絵文字を見つけた場所や、意味を書く。 p.15に例示された絵文字が、文章に書かれた三つの特長のどれにあてはまるかを考える。 (2) 「始め・中・終わり」の三つの段落構成で、身のまわりにある絵文字や本から見つけた絵文字を説明する文章を書く。 (3) 考えたことや感想を書き、文全体を読み直す。	
				9	広げよう 4. 身のまわりにある絵文字を説明する。 (1) 書いた文章を友達と読み合う。 (2) 感想を話し合う。 (3) 学習全体を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	時	学習活動	評価規準
10 ～ 11	7 (話す聞く 7)	絵文字で表そう	◇司会や記録などの役割を決めて、保健室を表す絵文字についてグループですすんで話し合う。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 →知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表 A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 →思判表 A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →思判表 A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 →思判表 A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 →◎思判表 A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 →思判表 A(2)ウ	10	○単元名とリード文を読み、保健室についての話し合いの例をもとに学習の見通しをもつ。 (1) これまで行ってきた話し合いの際の進め方や役割分担を想起する。 (2) 「学習の進め方」と照応させながら、保健室の例をもとに学習の全体の流れをつかむ。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。
				11	決めよう・集めよう 1. 絵文字にする場所を決める。	
				12	組み立てよう 2. 役割を決めて、話し合いの進め方確かめる。 (1) 「1」の流れを確かめ、話し合いの内容、記録係のノート例をあわせて読み、春田さんのグループのメンバーの役割や立場を理解する。	
				13・14	話そう・聞こう (重点) 3. グループで話し合う。 (1) グループの友達と役割を交替して話し合いを繰り返し、それぞれの役割や立場で話し合いを進めるポイントを確かめる。 (2) どのようにすれば上手なグループの話し合いになるのか確かめ、役割をはっきりさせて話し合う。	
				15・16	伝え合おう 4. 話し合いの感想を伝え合う。 (1) グループごとに話し合いで決まったことを全体の場で報告し合い、それぞれの役割がきちんと果たせたかを振り返る。 ○自分の役割や友達の役割について振り返り、これから生かせることを書き留める。	
11	4 (話す聞く 2)	気持ちを伝える話し方・聞き方	△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 →知技(1)イ ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 →◎思判表 A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →思判表 A(1)ウ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 →思判表 A(2)ウ	1・2	○気持ちを伝えるための話し方・聞き方について学習することを理解して、学習の見通しをもつ。 1. 「言葉」と「話し方・聞き方」について学ぶという学習内容を理解する。 2. いろいろな気持ちをこめて「クロクロ」と言い合い、言葉にこめられた意味(気持ち)を考える。 3. 自分が考えたほかの気持ちを友達に「クロクロ」で表し、何を伝えようとしているのか「あてっこゲーム」をし、伝えたいことをどう表現すればいいのか、何を工夫すれば伝わるのかについて話し合う。 4. 気持ちの伝え方(伝わり方)を確かめ、どのようにすれば相手の気持ちを傷つけずに自分の意思を伝えられるのかを知る。 5. (1) 聞くほうは何に注意して聞けばいいのか考える。(2) 聞き方を変えることで、相手の話しやすさがどう変わるかについて考える。 6. 気持ちの伝え方や聞き方、言葉以外の表情・態度などについて考える。 7. 言葉にこめられる気持ちについて考える。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11	2	漢字の広場 ④ へんづくり	△へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 2. p.31を概観し、左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」、右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 3. p.30の下段の設問に取り組み、気づいたことを話し合う。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)
				2	4. 「きへん」「にんべん」「てへん」の名称を知り、字例、語例などをもとに、それらの意味を考え、話し合う。 5. 「おおがい」「ちから」の名称と字例や語例を理解する。 6. これまでに学習した漢字の中から、同じ「へん」や「つくり」がある字を探し、発表し合う。	【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 二年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 「わたしは、絵をかいいたり、はさみで紙を切ったりすることが好きです。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を文に書く。 9. 絵の中の言葉や漢字を使って、自分の教室の様子を、主語をはっきりさせて文に書く。 10. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	1	こそあど言葉	△指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ	1	○冒頭の会話文を通して、こそあど言葉について知る。 1. 教科書を読んで、こそあど言葉のはたらきや形について知る。 2. 絵を見て空所に入るこそあど言葉を考える。 3. 教科書を読んで、こそあど言葉が話や文章の言葉や事柄を指すことを理解する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで指示する語句の役割を理解し、学習課題に沿って、指示する語句を適切に使うとしている。
12	5 (書<5)	はっとしたことを詩に書こう	■身近なことを、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。 ⇒思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	1 2・3 4・5	○教材名と二編の詩を読んで、学習のめあてを捉え、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 4月から書きためている「発見ノート」やこれまでに書いた日記などをもとに、心が動いた瞬間について振り返る。 組み立てよう 2. 二編の詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩の書き表し方について理解を深める。 書こう・読み返そう(重点) 3. 自分のまわりに目を向けて、はっとして何かを見つめ直したことをもとに詩を書く。 伝え合おう 4. 書いた詩について交流する。 ○題材の選び方や心の動きの表現の仕方など、今回の学習で学んだことを記録する。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
12	4 (書<1)	ことわざ・慣用句	△ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	1 2 3 4	1. 教材文を読んで、知っていることわざや慣用句について話し合う。 2. ことわざや慣用句の意味を、辞典を使って調べる。 3. 調べた意味をカードに書き、互いに交流する。 4. ことわざや慣用句を集めて、カードにまとめる。 5. 作った文を発表し、交流する。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	2	詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	□音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 『夕日がせなかをおしてくる』 (1) 様子がよく伝わるように、工夫して音読し合う。 2. 『いちばんぼし』 (1) 『いちばんぼし』を読んで、想像したことを発表し合う。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1	7 (話す聞く 7)	三 調べて発表しよう	◇町の行事について調べ、図や写真、表など、資料を選んで発表する。			
		町の行事について発表しよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要ことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	1 2 3・4 5～7	○教科書の文章を読み、町の行事について調べたり、資料を整理して発表したりする学習活動のあらましを知る。 ・「学習の進め方」と本文とを照応させながら活動の流れを確かめ、学習計画を立てる。 決めよう・集めよう 1. 調べたいことを決めて、詳しく調べる。 (1) 自分たちの町の行事を思い出したり、調べたりして、教科書の文章やグループの話し合い例をもとに、詳しく調べる内容を話し合っ決めて。 (2) 教科書の資料例や「インタビューをするとき」を参考に、調べて資料を集めたり、インタビューできたりする準備をし、調査する。 組み立てよう 2. 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。 (1) 教科書の話し合いの活動にならって、自分たちの集めた資料を比べ合い、どの資料をどのように使って報告するかを話し合い、選んだり加工したりする。 (2) p.76の例などをもとに、役割や資料提示の仕方を考えて発表台本を作る。 話そう・聞こう(重点) 3. 資料を使って発表する。 (1) クラスで報告会を開き、資料を使ってわかりやすく話したり、大事なところに気をつけて聞き合ったりする。 伝え合おう 4. 発表を聞いて、感想を伝え合う。 (1) 各班のよいところやもっと工夫できるところについて、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(【知識及び技能】(1)イ) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Aウ) 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習の見通しをもって、資料を使って発表しようとしている。
1	2	文の組み立て	△主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の会話文を通して、主語と述語だけでは文意が不明確な場合があることに気づく。 1. 教科書を読み、主語と述語による四つの文型を確認する。 2. 修飾語のはたらきと形を理解する。 3. 文の言葉を主語・述語・修飾語に分類し、図で表す。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) 【態度】進んで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、文の組み立てを捉えようとしている。
1	2	漢字の広場 ⑤ 漢字の組み立て	△かんむり・あしなどの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 2. p.81を概観し、「へん」と「つくり」のほか、位置によって「かんむり」「あし」「たれ」「よう」「かまえ」などと呼ぶものがあることを知る。 3. 「くさかんむり」の漢字は、何に関係のある意味をもっているかを話し合う。 4. 「笛」を例に、「通・宮・原・図・雪・間」の組み立てを考え、話し合う。 5. これまでに学んだ漢字から、二つの部分に分けられるものを選び出し、それがどのような組み立てとなっているかを話し合う。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(【知識及び技能】(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 二年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「まどの外は雪がふっています。母はあみものをしています。」を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている部屋の様子を説明する二文以上が続く文を書く。 8. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	7 (書く2)	四 図や写真と文章を、むすびつけて読もう	□段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。			
		川をさかのぼる知恵	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の關係に着目しながら、考えと理由、事例の關係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2 3・4 5 6・7	○単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの全体を確かめる。 (1) 見沼通船堀が必要になった理由を話し合う。 (2) 芝川と見沼代用水の間を行き来するとき、どんな危険があったのかを確かめる。 考えよう 2. 芝川と見沼代用水の間を行き来するための工夫について、6つの段階に分けた図を用いる等して、整理する。 (1) 段階ごとに行うことにサイドラインを引く。 (2) サイドラインを引いた部分を短くまとめて、図に書く。 (3) 図にまとめたことを友達に説明する。 深めよう 3. 見沼通船堀を考えた人たちの知恵について考えたことを話し合う。 (1) 考えたことをノートに書き出す。 (2) 友達どうしで、書いたことを交流する。 広げよう 4. 「3」で話し合ったことをもとに、考えたことをノートにまとめ、友達と読み合って、感想を交流する。 (1) 考えたことを詳しくノートに書き、友達と読み合う。 (2) 友達や自分の考えのよいところを見つける。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。
2	1	十二支と月のよび名	△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ	1	1. 昔から使われている言い方について、自分たちが知っているものをあげる。 2. 教科書を読み、月や干支の昔の言い方やその由来について知る。 3. 月の言い方や、知っている昔の言葉の意味について辞典や本を使って調べ、新たに知ったことを共有したり比べたりする。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ) 【態度】積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 二年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒◎思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「赤い屋根の家の前を歩いて、学校へ歩いて行きます。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている町の様子を文に書く。 8. 絵の中の言葉や傍線の漢字を使い、「くわしくする言葉」(修飾語)を加えて町の様子を文に書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
3	10 (書く2)	六 登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	□登場人物の心の動きを想像しながら、消えていったおにたに手紙を書く。			
		おにたのぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。 ⇒思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3～8 9・10	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 中心人物のおにたについて、感想をもつ。 (1) 主な登場人物を確かめる。 (2) 中心人物であるおにたについて、最後の場面を読み、感想を書いて紹介し合う。 考えよう 2. 物語を読んで、おにたの気持ちの移り変わりを想像する。 (1) 物語の初めの部分（まこと君の家）から想像できるおにたの性格について話し合う。 (2) まこと君の家にいるときのおにたと、女の子の家を見てからのおにたの様子を比べて考えをノートに書き、紹介し合う。 (3) まこと君の家を出て行くときのおにたと、女の子の前からいなくなるときのおにたの違いについて考え、話し合う。 深めよう 3. おにたは、なぜ「角かくしのぼうし」を残して女の子の前からいなくなってしまったのか、考えをノートに書いて話し合う。 広げよう 4. おにたの性格や気持ちの移り変わりをもとに、消えていったおにたについて考え、おにたへの手紙を書く。 (1) おにたが消えてしまったことについて、思ったことをノートにメモし、発表する。 (2) 読んで思ったことを手紙にしておにたに書き、お互いに読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまで から	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えるために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1 2	1. 1年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 2. 四年生になったら、1で出し合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えるために必要な事柄を選んでいる。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。